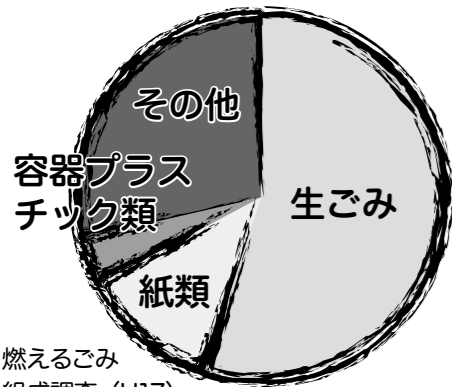
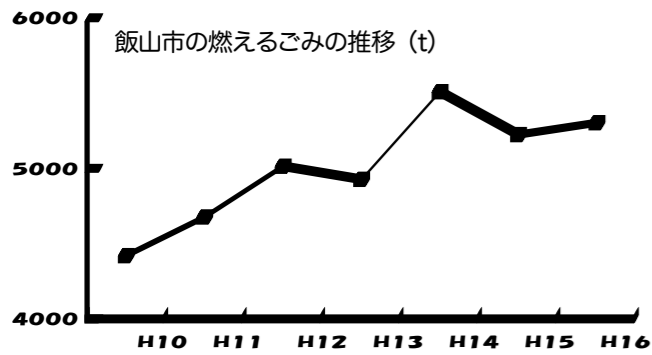


燃えるごみ

減らし方ガイド

燃えるごみは、収集車で集められ、焼却炉で燃やされ灰になり埋め立てられます。

これらのごみの処理に飯山市では、年間約2億円を使っています。そして、年々、燃えるごみは増え続けています。



燃えるごみの中身は、「生ごみ」と「紙類」が約7割を占めています。つまり、これらを適切に処理すれば、燃えるごみは減ります。

紙類の対策

燃えるごみの中の紙類は、実はチラシなどの「その他の紙類」がほとんどです。このような紙も古紙の回収日に出せば、きちんとリサイクルされます。

- ①チラシ、ボール紙、お菓子の箱、ハガキ等は、ごみ箱に入れず…
- ②紙袋や紙入れ用の箱（A4サイズが入る大きさのもの）、封筒などに入れて保管して…
- ③たまたたら縛って、月に一度の「古紙の日」や学校などの「資源物回収の日」に出してください。

実践しましょう。
飯山市生ごみ出しません宣言！

生ごみ対策

①水分ダイエット

生ごみは水分の塊です。ごみ袋に入れる前に、次の手順で水分ダイエットを心掛けましょう。

- ①お茶がら、コーヒーかすはぎゅっと絞る。
- ②水が当たらないところに置いた三角コーナーに一晩置いておくと生ごみが乾く。
- ③その都度、水気を切った生ごみを新聞紙に包み、かごに入れて、高いところで乾燥させる。上記の作業だけで、重さは10～20%減少します。

臭いものにふたをすると、腐敗してさらに臭くなります。生ごみは、密封させないほうが扱いが楽です。



②たい肥として再利用

たい肥化に必要な4つの要素

- ①自然にいる微生物
生ごみたい肥化の主役。土の中、落ち葉、米ぬか等さまざまな場所に生息している普通の微生物。
- ②酸素
たい肥化させる微生物には、酸素が必要。酸素が十分行きわたるよう、たい肥をよくかき混ぜてください。
- ③適当な温度
微生物が活発に活動できるのは10℃以上。たい肥化が進むと50℃程度まで温度が上がります。
- ④適当な水分
少ないと微生物は休眠。多すぎると生ごみが腐り、嫌な臭いが出ます。適当な水分が重要です。たい肥化が進むと生ごみから多量の水分が出るので注意が必要です。

飯山市自立計画を策定していきます

策定～公表
～実施まで



『自立計画は今年度内に説明会』を延期
市報1月号では、1月末に自立計画を策定し、今年度内に地区ごとの説明会を開催する予定、というお知らせをしました。飯山市豪雪災害対策本部が設置されたことによる全庁的な対応の中では予定どおりの策定は困難なため、計画策定を延期することになりました。

市民の皆さんのご理解をお願い申し上げ、先月に引き続き自立計画書の策定状況をお知らせいたします。

自立計画の位置付け
自立計画書の柱は、①行政のスリム化で経費を削減し、②現在の人口を維持しさらに増加を目指すために

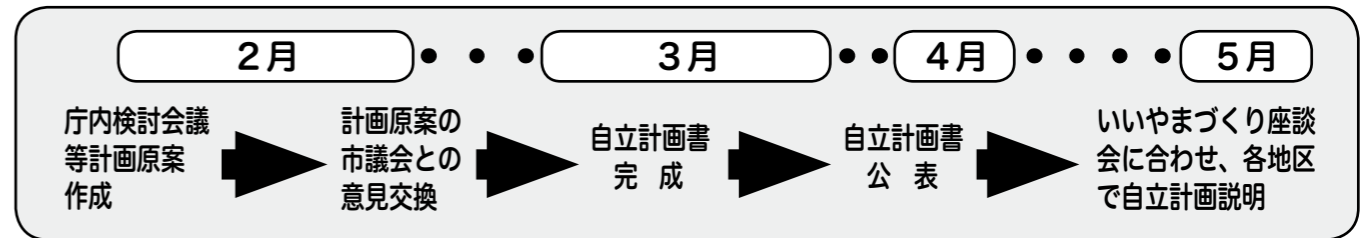
新たな投資を行い、②加えて協働のまちを目指して自助・共助・公助を進める、の3つであることは先月号でもお知らせしましたが、飯山市にとって、自立計画とは、どういった位置づけで、どのように進めていくものか、もう一度お知らせし、皆さんの御理解をお願いするとともに、皆さんの御協力のもと、一緒に取り組んでいきたいと考えております。

総合計画との関係
飯山市は平成15年度から始まった『飯山市第4次総合計画』に沿って『輝ける飯山づくり』を進めてきました。この計画には、行政のスリム化や協働のまちづくりがテーマとして盛り込まれており、言うまでもなく市町村

合併協議は、これらを達成するための目的の下で取り組んできたものであり、また、自立の考え方も同様です。今回、自立を目指すことは、合併協議がダメになったからということではなく、もともと総合計画で目指してきたものです。新たな計画と違うことではなく、総合計画の内容を今の飯山市の現状に合わせて見直し、より集中的にさらに強化した内容を盛り込んだものと位置付けています。

また、自立計画は、平成20年度からスタートする『後期基本計画』などへ反映するものとしても位置付けられるその考え方が引継がれる予定になっています。

自立計画の策定～公表～実施（予定）



飯山市第4次総合計画（H15～24年度）

